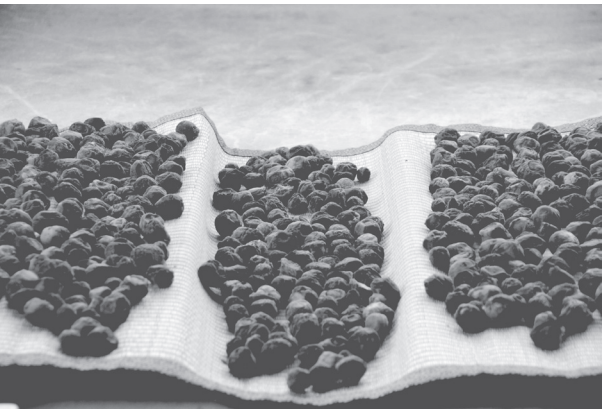


広徳寺通信

Letter from Koutokuji Temple 第5号



◆ お盆明けて梅を干す。

「宗教が理想を語らなくて誰が理想を語るのか」。マザー・テレサは言いました。これはキリスト教に限らず、仏教にも言えることです。

この世の中で理想をもって生きることは簡単なことではありません。理想は非現実的と遠ざけられがちだからです。しかし、それでも、理想をかかげる願いをもって生きることが、その人に生きる希望を与えてくれます。仏教ではそうした願いを特に「誓願」と言います。仏教は誓願からはじまります。



ひとくちコラム

今年のお盆は暑かったですね。炎天下の中、お墓参りお疲れ様でした。例年に比べ、お供物を持ち帰ってくださる方が多く、お墓もきれいに保たれていました。来年もご理解・ご協力お願いいたします。



◆ 盂蘭盆会の法要が終わって夕刻、ご先祖様の御霊を、水塔婆とともにお送りしました。
住職

梅花講よりお知らせ

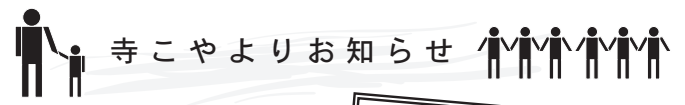
9月7日8日と洞爺で一泊。みんなで御詠歌の検定講習会に行つて参りますわ。



毎週土曜日 午後1時～3時
詳しくはお寺まで。
お気軽にお尋ねください。

曹洞宗 廣徳寺
慈眼山

〒049-0162 北海道北斗市中央 2-3-14
TEL 0138-73-2032 FAX 0138-73-5500
✉ info@jigenzan.org



寺こやよりお知らせ

始まる時間に注意!

寺こや坐禅塾

シンプルな自分にいったんリセット!

日時：9月25日(土)

午後3時半～5時
(4時から坐禅指導があります)

参加費：100円

※足を組めない方にはイスをご用意してあります。
※お寺では朝6時から坐禅をしています。ご一緒にどうですか?
詳しくはお寺まで。



お寺ニュース



お寺の塀を直しています

現在、お寺の門前の塀を新しくしています。お盆のお参りに来られた方の中には、塀がないことに驚いた方もいらっしゃるかもしれません。9月中



に完成する予定です。お彼岸のお参りの際には是非ご覧下さい。

◆石塀は長きにわたって残るもの。お名前を入れたい方はお寺にご一報下さい。



れいくぜん
第4回 「お霊供膳 その3」

今回は「お霊供膳」についての最終回。仏飯をうまく盛る方法や生飯についてのお話です。

ご飯の上に乗せる
数粒のお米は何？

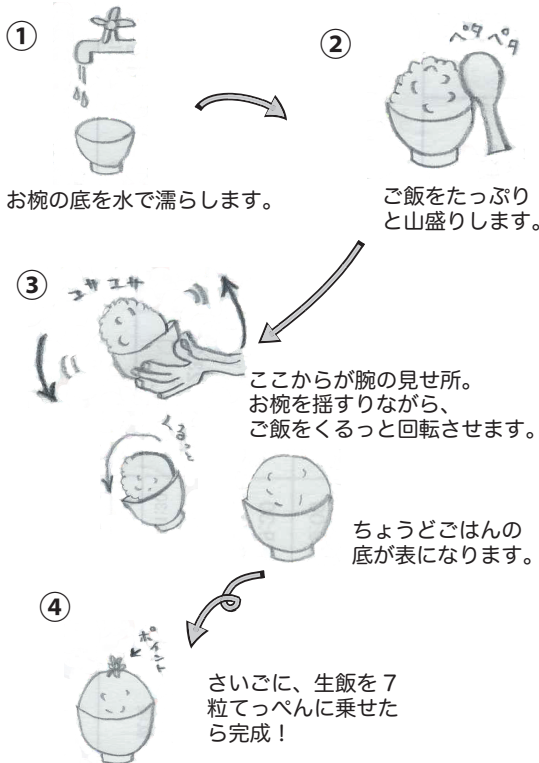


広徳寺ではお経が始まる前に、和尚さんがご飯の上の乗せられた米粒を茶碗の水に入れます。生飯さばといって、お供えされた食べ物を、目の前のご先祖様だけではなく、生きとし生けるものいっさいしゅじょう（一切衆生）に施すものです。ひとつの布施行ですね。

そういうことですから、お霊供膳を下げた際には、生飯の入った水を玄関先や庭など外にまきましよう。生飯は永平寺などの修行道場でも、食事の際に行われている尊い修行の一つです。

生飯の量は、道元禅師様より伝えられていて、7粒以下。因みに、ご飯ではなく、麺類やお餅の場合、硬貨の半分ほどを施します。

上手なご飯の盛り方



次回予告

第5回 「お焼香の仕方」

今回は、お焼香の仕方についてです。お楽しみに！



「知って納得。仏教の話」では、皆様からのご質問をお待ちしております。



今年のお彼岸は9月20日からの一週間。中日の23日にはお寺で法要もあります。せっかくですから、お彼岸について少し勉強しましょう。



◆ 暑さ寒さも彼岸まで

お彼岸は、春分・秋分の日を中日として、前後3日間を合わせた一週間です。太陽が真東から昇り、真西に沈む時期に、夕日に手を合わせる行為が先祖供養の習慣となって、お彼岸となったと言われています。季節の変わり目にあたり、いのちの尊さや自然の恵みに感謝しながら、ご先祖様を供養します。

◆ 仏法を聞き、生活を正す。

仏教では、私たちが生きている迷いの世界を「此岸しかん（川のこちら側の岸）」、むさぼりやとらわれのないさとりの世界を「彼岸ひがん（川の向こう側の岸）」と呼びます。この安らぎの彼岸へ渡ることを願い、仏道修行が行われてきました。そしてこの時期には、特に在家信者も戒律を守り、仏法ぶつぽうを聞き、生活を正すという習慣がありました。お彼岸は、ご先祖様に思いを寄せるとともに、自分自身のいのちのありかたを見つめ直す、大切な期間なのです。